霧島市 じまんばな誌 ④ 大イチョウ

堂々とそびえる一対の大イチョウ 晩秋から初冬の風景は圧巻です。

夫婦イチョウではなく姉妹イチョウ?!

錦江湾は薩摩半島と大隅半島の間に入り込んで、鹿児島市から霧島市の方へゆるくカーブを描いています。湾奥と呼ばれるこの地域の東側に位置する霧島市福山町には、錦江湾に向かって建つ宮浦宮があります。

神社の境内に入ると、一対の巨大なイチョウが迎えてくれます。本殿は以前に台風などの被害にあったので平成21年9月に建立しました。250年ぶりの新社殿です。木の香りがただよってきて、心も清々しくなってきますよ。

宮浦宮は歴史も古く西暦900年頃に編集された『延喜式帳』にも記されています。境内に並び立つ大イチョウは、神武天皇ご東征前の仮のお宮であったことを記念して植えられたと伝えられています。樹齢はたぶん1000年以上でしょうか。ガイドブックなどには「夫婦イチョウ」と紹介されています。ところが、イチョウには雄木と雌木があり、実は両方とも雌木です。だから、夫婦ではなく「姉妹イチョウ」なんです。

御神木でつくったまな板

大イチョウは宮浦宮の御神木で、福山小学校の校歌にも登場します。その御神木が台風被害を受けた時に、倒れた部分をなんとか活かそうと3年かけてまな板にし、神社で販売しています。親子で参拝にいらっしゃったお父様が、息子さんが板前になったお祝いに買っていかれました。厚さ4センチのまな板、それも御神木を加工したものですから、たいそう喜ばれましてね…大イチョウとともに、是非見てほしいのが、いちばん奥の本殿を支えている左右2本の棟持柱です。ここの棟持柱は長野県木曽郡から運んできた木曽ヒノキを使っています。また、本殿には神武天皇にちなんだ腰掛石などがあります。境内には、『鬼滅の刃』ファンなら思わず参りたくなる竈門神社の祠もあるので、探してみませんか。

語り手 **松下 徳章さん**

錦江湾を望む絶好のビューポイントに建つ宮浦宮の宮司さん。お宮の参道や境内、そして拝殿内の清掃から参拝者の対応までを一人でこなす。もともと病院に勤務した後に宮司となったが、祝詞を唱え太鼓を打ち、歴史ある社を守る。

詳しい地図へ QRコード➡

宮浦宮内の竈門神社(末社)の祠

棟持柱

紅葉前の大イチョウ

晩秋から初冬の景色は一ぷくの絵画

この神社の魅力はなんといっても、先ほど話した大イチョウです。是非訪れてほしいのは、11月の後半から12月の中旬頃。大イチョウが真っ黄色に色づき、境内も黄金のジュウタンを敷き詰めたようになります。「秋の日はつるべ落とし」と言いますが、日が西に傾いてくると、目の前の錦江湾が輝き始め、桜島の上には赤いあかね雲。黄色のジュウタン越しに見る景色、そりゃもうこの世のものかと思うほどきれいです。鹿児島市内方面からいらっしゃった皆様は、こんなずばらしい夕景色は見たことないとおっしゃいます。鹿児島は南国だけに紅葉のシーズンが若干遅れますが、師走に金色のイチョウの舞いを眺められるのもかなり贅沢なことなのかもしれません。みかんや黒酢など、福山には名物もいっぱいありますので、参拝がてらいろんなものを味わってください。

立ち寄りスポット

竈門神社

わが国では古来カマドで不浄な物を煮炊きすると火の神様がお嫌いになり、火災は勿論、様々な災厄を招くと云われ、特にカマドに火の神様の御幣を立てて祀る習俗があるところから、住民が南園方限から火災を出さないことを願って神社を建立しました。

坂元醸造 壺畑

福山特産品「黒酢」

屋外に並べた壺を使って仕込み、発酵するという独特な製法による米黒酢。発酵・熟成に1年以上の長期熟成から生まれる特有の香りとまろやかな酸味が特徴。伝統的製法による黒酢の発祥の地は温暖で寒暖の差が小さく、薩摩焼の壺を使用する黒酢造りに最適です。

中茶屋公園

錦江湾の湾奥にある福山は湾沿いに集落が連なっていて、急な坂を登ると中茶屋公園に行き着きます。
東の方から桜島を眺めるので、12月中旬の夕景では、「ダイヤモンド桜島」を見ることができます。